

# 国際理解教育部会

## 1. 研究課題

21 世紀に生きる子どもたちを育てる国際理解教育の在り方はどうあればよいか。

～教育課程の中で、「多文化社会における共生」「グローバル化にともなう結びつきについての理解」などの国際理解教育の領域をどのように位置づけ、教材を開発し、実践するか～

## 2. 討議の柱

教育課程の中で、「多文化社会における共生」「グローバル化にともなう結びつきについての理解」などの国際理解教育の領域をどのように位置づけ、教材を開発し、実践するか

## 3. 研究協議会時の交流体制および運営体制

### (1) 討議の方法

帰国報告会、ワークショップ等の分科会に参加し、その中で質疑応答などを通じて研修を深める。

前後半で同じ内容の分科会を実施し、異なる2つの分科会に参加できるようにする。

レポート交流の時間を設け、部会員の取り組みや抱えている課題について交流や意見交換をおこなう。

### (2) 分科会の構成

#### a) 帰国報告会

#### b) 分科会 1～3 (内容は調整中)

a・b 合わせて4つの分科会を実施予定。詳しい内容については決定次第部会便りにて連絡する。

b については、内容によって人数制限を設ける。その場合は、受付時にカード等で参加者の決定をおこなう。

#### c) レポート交流

### (3) 運営体制

部会役員を中心に、駐車場等は会場校の部員の協力を得ながら運営をおこなう。

### (4) レポートの扱い、部数、形式

・実践レポート

・教育課程との関連にかかわるレポート

形式は自由です。28年度はレポート交流を重点の1つとしましたので、内容をより深めるよう取り組みます。個人または学校単位でのレポート提出をお願いします。全部会員での取り組みになるようご協力をお願いします。レポート提出締め切り等は、部会だよりでお知らせしますので、準備をお願いします。

### (5) 司会、提言、記録者等

#### ✓ 分科会

運営・司会	
深井比奈江	中央中
岡崎綾	江別第二中
新井宏	八幡小
吉田智美	厚田中
田中孝治	石狩小
壽福史人	緑陽中

## 4. その他

(文責 有本 憲司)